



さいたま市介護支援専門員協会
ロゴマーク

PARITIZER

Vol.51

2018年冬号

平成30年度 第2回全体研修会

「介護支援専門員に期待される役割とは」

～多職種協働ケアマネジメントの推進の視点から～

講師 埼玉県立大学 大学院 保健医療福祉学研究所 研究開発センター 教授 川越雅弘氏

開催日時 平成30年8月25日(土) 13時30分～16時00分

開催場所 浦和ふれあい館 第一会議室

本年度第2回目の全体研修会は、埼玉県立大学 大学院 保健医療福祉学研究所 研究開発センター 教授 川越雅弘氏をお招きした。川越氏は厚生労働省の「地域包括ケア研究会」の委員でもあり、国の施策や動向を交えながらご講義いただき、介護支援専門員に期待される役割について深く学ぶ研修となった。

①「人口構造の変化と社会保障への影響」

「地域包括ケア 多職種協働ケア
マネジメントが求められる背景」

なぜ地域包括ケアや多職種協働、ケアマネジメント機能強化が求められているのかを知るには、社会の背景を知ることが大切である。ポインントは、介護サービス利用者は増える一方で労働力人口(支える側)は減少する。また、85歳以上高齢者の半数が介護サービスを利用しており、加えて医療リスクも高い。そこで包括的なサービス提供が必要になると



共に、多領域に生活課題を有しているため多職種協働が必然となる。

②「ケアマネジメント関連の主な施策の動向」

ケアマネジメント関連の主な施策の動向としては、一、入退院支援の機能強化 二、ケアマネジメントプロセスの機能強化が挙げられる。入院患者の退院後の円滑な在宅生活への移行を促進するため、入退院時における医療・介護連携をさらに強化するための対応を行う。また、医療ニーズの高い者に対する看護職と介護職の連携強化やリハ職との連携強化が必要となり、異なる職種や事業所間での協働を推進していくために、アセスメントや課題抽出プロセスの

明確化が重要となる。

③「ケアマネジメントの基本的事項とその進め方」

そもそもマネジメントとは何か、ケアマネジャーの役割、ケアマネジメントの基本的事項と進め方について再確認した。「ケアマネジャーは何のサービスや支援を導入するかを考える人ではなく、課題を実際に改善・解決できる人のことである」と話された。

④「多職種の視点を入れたケアマネジメントの展開に向けて」

リハの視点、看護の視点を取り込んだケアマネジメントについて事例を通して説明された。ケアマネジャーとしてアセスメントすべき項

目を理解するため、生活障害者が有する病気に関する基本的事項を知っておく必要がある。「詳しいことは医療職に聞けば良いので、ケアマネジャーは基本的なことを知っていれば良い」と話があった。

最後に「サービス担当者会議を大いに活用してほしい」と話があった。専門職から個別に情報収集するのは大変なので、サービス担当者会議で専門職から情報や意見を得てほしい。「専門職の視点を知ることによってケアマネジャーの成長にも繋がる」と話があり、ケアマネジャーの役割や日頃の業務を見直す機会となり、有意義な研修であった。



岩槻区ケアマネサロン 「事例検討」

開催日時 平成30年8月31日（金） 18時30分～20時00分

開催場所 地域密着型特別養護老人ホーム ひなの槻 地域交流室

今年度第1回目の岩槻区ケアマネサロンは、地域密着型特別養護老人ホームひなの槻、地域交流室にて開催された。今回のサロンでは、春日部市でデイサービスを運営している、「あいはな」で、弁当を注文した。「あいはな」では、独居で食

事の支度が困難な利用者に、希望があれば帰宅時に弁当を持ち帰ることができるサービスを行っている。

和気あいあいと食事をしながら、自己紹介や情報交換を行う時間も設けた。

今回の参加者は特定事業所加算を

算定している事業所の介護支援専門員も多く、事例検討を行うこととなった。16名の参加者で、2つのグループに分かれてファシリテーターと書記を決めて話し合った。

事例を全員で読み込んだあと、どんな対応が必要か、他職種との連携

はどのように行っていけばよいのか、行政に相談する内容、関係機関へどのように繋いでいくのか等、活発な意見交換が行われた。

今回提供いただいた事例は、対象者本人だけではなく、家族全体を見渡しての対応が必要なケースである。

介護保険法はもちろんだが、障害者総合支援法や生活保護法などの関係法令も視野に入れながら検討し、インフォーマルサービスの活用なども事例に対しての提案がなされた。

事例検討からもわかるように、担当するケースの複雑化している対応の難しさが、ケアマネジャーの力量だけではなく物理的、精神的な負担が増えている。介護する家族の負担が大きい、家族関係の悪化、経済的な問題、行政など関係機関との連携……。これからも山積する問題にケアマネジャーは取り組んでいかなければならない。

1人ケアマネジャーの事業所が増



えていることや、解決が困難な事例を持つ事業所もあることから、岩槻区ケアマネサロンは情報収集やネットワーク作り、相談ができる場所として機能を果たしていかななくてはならない。今後私たち役員も参加者のニーズに応えられるような内容など、会員への積極的な働きかけを行っていききたいと思う。



見沼区・北区合同ケアマネサロン

「教えて、福祉用具お得な最新情報」

より良い連携を目指して

開催日時 平成30年9月14日（金） 10時00分～11時30分
開催場所 プラザノース 第3・第4セミナールーム

今回のサロンは、北区・見沼区の福祉用具事業所をお招きして、福祉用具の最新情報、最新の機器などを

ただきながら用具の知識を教えてください、福祉用具事業所との連携強化、関係づくりのきっかけとなればと考え開催した。

最初に、北区、見沼区にある全事業所に、各区の担当、連絡先、営業形態、アピールポイントをケアマネジャーが把握すること、利用者のニーズに合った支援、事業所の特色を把握するために、FAXにて情報を集め一つの冊子を作り、参加者に配布した。

福祉用具事業所は、北区と見沼区それぞれ4事業所を選出させていただき、展示物（事業所別）を確認、依頼を行い様々な用具が展示された。

最初に、平成30年度は法改正の年でもあり、福祉用具事業所「トーカイ」





役所に提出時は決定事業所の見積もりで提出。経過記録へ事業所決定までの経緯が記載されていること（情報を残しておく）が重要とのこと。

また、見積書の内訳に添付する写真の番号が、照らし合わせられるようにしておく等、沢山のご指導をいただいた。

その後は、各事業所が持参した用具の利用方法、特長などを順次説明された。

ある事業所は、通常貸与されている手すりを、事業所オ

リジナルで製品化したもの、石畳があっても車椅子が移動できるスロープ、人の身体に合わせて車椅子の座面、タイヤの場所などを微妙に調整することができる車椅子、浴槽内の手すり、分解できる電動車いすで且つ小回りができるもの等、様々な用具が紹介された。

その後のフリータイムでは、参加したケアマネジャーが興味を持った用具のブースに向かい、熱心に説

明を聞き、実際に乗ったり、触ったりして動きを確認した。見る機会の少ない商品もあり、どのブースも盛況だった。

研修後、アンケートを実施し、参

加者からは実際に用具に触れたり、福祉用具の相談員（担当区域）と近い距離で話すことで顔と名前が一致し、今後の関係形成にとっても良かった。他のサービス事業所でも行って欲しいとの意見も多く聞かれた。

利用者（ご家族）が住み慣れた自宅、地域で生活が継続できるように、サービス事業所、ケアマネジャー、地域との円滑な連動、つながりを作っていくことが大切であると感じた。



施設ケアマネサロンの報告

テーマ 「座談会〜ひとりりで悩んでいないで話そうよ」

開催日時 平成30年9月8日(土) 14時00分〜16時30分

開催場所 さいたま市生涯学習センター 学習室3 シーノ大宮センタービル9階

今回の施設ケアマネサロンは、施設介護支援専門員として働く中での困りごと、組織内での多職種連携、ケアプラン作成の上でいまさら聞けないことなどを持ち寄り、情報交換会を開催した。スタッフがグループ

に加わり発言をリードし、申込時に予め提出してもらった「今回、話をしてみたいこと、聞いてみたいこと」をレジュメとして配布、提出者から突破口として発言してもらい、他の参加者から意見を伺う形式でサロンを進行した。

各話題については、以下のような意見が寄せられた。

・ケアプランとフロア（現場）との連動や内容の落とし込みについて
ケアプランを見ていない現場職員もいる中で、どのようにしてその内容を職員に周知を図るか？

現場職員は、記録、連絡ノートを見てから仕事に入るようにしている。業務中はプランを見ることができないので月一回のフロアミーティングの時に配布している。アセスメント、モニタリングファイルをフロアに置

いて職員が自由に閲覧できるようにしている。支援内容を記入したシートを作成して〇×でチェックできるようにしてコメント欄も用意して意見をもらっている。

・担当者会議の開催の仕方について
全職種が参加しているが本人、家族も参加してもらっているのか？

本人の意向を聞き出すのが困難な場合、一番身近で接しているケアスタッフからどのように感じているかを聞き出すようにしている。電話で家族の意向を聞き出しているが、施設から電話すると緊急事態と受け取られかねないので難しい。電話する時間帯の判断も難しい。声のトーンを柔らかくするなど配慮して電話している。会議の進行をスムーズにするために、事前にプラン原案に対するコメントをスタッフに聞いておく。医療的可否に関するものは医師・看護師に事前に確認しておく。

・在宅復帰の難しいケース。本人・家族への働きかけのポイントについて（老健）

終身施設ではないという認識をし

てもらえるように工夫して伝えていく。退所先を斡旋してくれるひとを作ることも大切。（民間介護施設紹介センター営業マン、他の老健のケアマネ等）

終了後のアンケート

トでは、「施設ケアマネだけで集まり、施設のケアマネジメンについて話せる場がなかなかないので、こうした機会は本当に嬉しいです」「ご近所の知り合いを作り、困ったときに相談できるケアマネジャーがほしかったので、皆さんと顔を合やすことができて良かった」「居宅CMの経験が長かったので、施設CMとしての業務を客観的に見られる良い機会になりました」「具体的な取り組みを知ることができました。今後に向けて意欲がわきました」など肯定的な感想ばかりを聞いた。

最後に、複数の参加者から協会への加入申込について質問を

頂いたこと、非会員の方も終了後の懇親会に参加して頂き、親睦を図ることができたことを報告する。



ちょっと coffee break

「花の名は。」

「お父さん！この草どこまで伸びるか見たいから、絶対に抜かないでね」

小学3年生の娘に頼まれて、庭に生えてきた雑草を育てることになりました。学校の成績は中の中、宿題をしたりしなかったり、勉強よりも運動好きな、好奇心旺盛な(ちょっとかわいい)女の子です。そんな娘の通信簿で初めてのA評価が理科でした。評価してもらえたことが父娘ともに嬉しくて、本当の自由研究でも始める気分です。

この頃の理科の授業では、ヒマワリとホウセンカの違いなど、ちょうど植物の成長を学んでいるそうです。昔はこんな勉強あったかなあと自身の回想法も兼ねながら、スマホをいじるのをやめて答え合わせに目をやります。

ところで僕はガーデニングの趣味があり、バラの咲く小綺麗な庭が自慢なのです。バラ肥料が行き渡る庭の恩恵にあやかっ、雑草もぐんぐんの子供の背丈ほどに伸びました。雑草が成長するのに反比例して、庭の景観はみるみる残念なことになってきました。複雑な心境です。

水やりをしてさらに育てていくと、勉強した順序どおりに小さな蕾がつかしました。どんな色の花

が咲くのか、娘の期待も最高潮に膨らみます。渋々見守ってきましたが、いつしか一緒に楽しむになりました。

そしていよいよ実りの秋。小さな黄色の花がたくさん連なって咲きました！愛情をかけて育てると、雑草もこんなに綺麗に咲くんだな。世界に1つだけの花に、嫁と5年生のお姉ちゃんも、感動で涙と鼻水が止まりません。育てた当人よりも泣くなんて、ちょっとオーバーだけど良いところあるんだなと感心していました。

そういえばいつまでも雑草と呼ぶのもかわいそうだし、名前ぐらい調べてみよう。特徴や画像を元に検索すると簡単にヒットしました。その花の名はブタクサ…ん？キク科ブタクサ属の1年草で、日本国内ではスギ・ヒノキに次ぐ患者数を持つ、秋の花粉症では代表的なアレルゲンである…なるほど。

もっと早く調べるか、知らない方が良かったのか？伝えるべきか黙っておくか？悩める大人の自由研究は植物学から哲学へと進んでゆくのでした。

事務局

〒331-0823 埼玉県さいたま市北区日進町2丁目1864-10

JS日進 さいたま市社会福祉協議会内 さいたま市介護支援専門員協会

(連絡先) 社協 地域福祉課 TEL 048-834-3133 FAX 048-835-1222

社協 浦和区事務所 TEL 048-834-3131 FAX 048-833-3199

ホームページ

<http://www.saitamashi-keamane.jp>

さいたま市介護支援専門員協会

検索